

日本語初習者の多い漢字入門クラスの運営

— タスクを中心に —

鄭 聖美 柳田 しのぶ

要 旨

本稿は、筆者らが担当した2011年度の「漢字入門クラス」についての報告である。筆者らは、当該クラスを受講する日本語初習者は漢字学習が困難だと感じがちであり、受講を途中で放棄したり最後まで持ちこたえても成績が悪かったりすることが多いという共通認識を持ち、彼らのサポートを念頭に置いた様々なタスクを取り入れながら、クラスを運営した。本稿では、実際にどのようなタスクがおこなわれ、タスクの遂行にあたってどのような学習者の様子が観察されたかを述べた後に、授業終了時のアンケートの結果に基づき、各タスクについての学習者の評価を分析し今後の課題について考える。

【キーワード】 漢字入門 日本語初習者 漢字タスク

Management of an Introductory Kanji Class with Many Zero Beginners of Japanese : focus on tasks

JUNG Sungmi, YANAGITA Shinobu

【Abstract】 This is a report on an introductory Kanji Class (K200) in 2011. We realized that zero beginners of Japanese attending K200 tend to have difficulty in learning Kanji and to abandon it in the middle of the course, or get a low score on the final test. We had a common understanding that they needed to be supported in order to continue and succeed in learning Kanji. Therefore, we ran the class while incorporating various tasks. In this report, we describe what kinds of tasks were employed, and what was observed in the classes. Then, based on the results of a questionnaire, we report the learners' evaluations about each task, and suggest future themes.

【Keywords】 Kanji introduction, Japanese beginner, Kanji learning tasks

1. はじめに

本稿は、筆者らが担当した2011年度の「漢字入門クラス (以下、K200)」についての報告である。2011年度の1学期から3学期にわたるK200-1とK200-2という6つのクラスを報告の対象とするが、「K200」という枠としてK200-1とK200-2を1つのクラスにまとめて報告をおこなう。

近年J200レベルの学習者¹を主な受講者として想定してきたK200クラスに、受講を希望して来るJ100レベルの学習者が増えてきている。主に短期留学生が多く、一学期でも早く漢字学習を始めたいという強い要望があり動機と意欲はある。ところが、学期の初めには日本語の指示がほとんどわからないうえ、仮名も読めない場合もある。また、彼らにとってクラスで取り上げられる語彙は大体未知語であり、未知語の字形と読みを同時に覚えなければならないため、認知的負担が高い。よって、途中放棄者も決して少なくはない。そこで、筆者らは、K200を受講するJ100レベルの学習者の漢字学習をサポートする必要があることに共感し、1学期から3学期にわたって意見交換をしながら協働した。筆者らが主眼を置いたのは、クラス内外でのタスクを通して漢字学習の支援をおこなうことであった。

そこで本稿では、学習者の構成と出欠推移、最終成績などを通して筆者らの担当したクラスを紹介した後に、実際にどのようなタスクがおこなわれ、学習者のどのような様子が観察されたかを報告する。その後、授業終了時のアンケートの結果に基づき、実施した各タスクについて学習者はどう評価しているかを分析し、今後の課題について考える。

2. K200クラスの概要

本クラスであるK200は、文法初級レベルの学習者が字形の書き方、読み方、漢字語彙の使用方法を学習すると共に、漢字の習得方法についても学ぶ。クラス終了時には漢字を120字程度まで学習する。基本的にはJ200レベルの学習者を対象としている。

使用テキストは『Basis Kanji Book vol.1』(以下BKBと略す)であり、L1からL11までの漢字を全10回の授業で学習する。なお1課分の漢字数は10字から12字である。毎回の授業で毎課の新出漢字がその意味、書き方、読み方と共に導入されるが、一学期に2回ほど2課分およそ24字の漢字を導入する週がある(表2参照)。

成績評価方法はクイズ30%、宿題10%、期末テスト60%であり、それらの合計によって最終成績を算出する方法をとっている。なお、60%以上の出席が必須である。これに満たなかった場合、テストやクイズが高得点であっても成績は不可となる。

先述したように、本クラスは基本的にはJ200レベルの文法力を持つ学習者を対象としたクラスであるが、J100レベルの学習者も受講を許可している。その結果、異なった日本語レベルの学習者がクラスに混在することになり、さらにその割合は学期によって変動する。それにともない、クラスの運営も学期ごとに異なっている。

3. 2011年度のK200クラス

ここでは2011年度1学期から3学期までの初級漢字クラスにおける学習者の構成、また出席の変移、最終成績について報告する。便宜上J200レベルで漢字圏の学習者をⅠグループ、J200レベルで非漢字圏の学習者をⅡグループ、J100レベルで漢字圏の学習者をⅢグループ、J100レベルで非漢字圏の学習者をⅣグループと分類する。

3.1 学習者の構成とクラスの運営

表1は2011年度の各学期のクラス人数と学習者の構成である。学期によってクラスの構成に変動はあるが非漢字圏の学習者が最も多いことは全ての学期に共通している。

表1 2011年K200クラスにおける学習者の構成

	1学期	20名	2学期	24名	3学期	28名
Ⅰグループ	中国	1名	中国	1名	中国(9) 台湾	10名
Ⅱグループ	ペルー フィリピン ミャンマー ベトナム カザフスタン パキスタン(2) メキシコ(2)	9名	メキシコ イラン ブラジル アメリカ エジプト シリア スペイン ロシア	8名	ベトナム インドネシア タイ モンゴル ドイツ	5名
Ⅲグループ	中国(2)	2名	中国(4) 韓国	5名	中国(3)	3名
Ⅳグループ	タイ パキスタン ポリビア アメリカ インドネシア(2) シリア(2)	8名	ヨルダン フランス ドイツ チュニジア タジキスタン(2) モンゴル(2) アメリカ(2)	10名	チュニジア パキスタン ウズベキスタン ベトナム フィリピン インドネシア(3) タイ(2)	10名

1学期のクラス構成は非漢字圏が80%以上をしめ、その中ではJ200レベルであるⅡグループとJ100レベルであるⅣグループが半々であった。Ⅰグループは既知の語彙を確認しつつ読みを学習しており、漢字圏特有の字形や読み違い以外は特に漢字学習に問題は見られなかった。Ⅱグループは字形を覚えるのに認知的負担の大きい様子が見られたが語彙としては既知のものが多いため、読み学習に特に苦しむ様子は見受けられなかった。Ⅲグループは漢字圏学習者らしい誤り、例えば母国の漢字からの干渉で字形と音読みを混同する様子はあるものの、漢字学習に苦しむ様子はあまり見受けられなかった。Ⅳグループは頑張っているものの、漢字学習のすべてに苦勞する様子がみられた。そこで、1学期はクラス

の焦点を人数の多いⅡグループに置き、非漢字圏の学習者に合わせて字形に重点を置いた導入をおこなった。読み練習等もⅡグループに合わせ、Ⅳグループの様子を確認しつつ授業を実施した。またⅣグループの学習者には、宿題に英語で細かいコメントを書くなどのフォローをおこなった。媒介語使用についてはJ100レベルであるⅣグループの学習者があつる程度日本語に慣れてくる時点までは英語使用を認め、教師も最初のうちは授業内で英語を使用し、4回目の授業である5課あたりから徐々に日本語の使用率を上げていった。タスクとしては、従来からの「PPT読み(練習型)」、「ペア読み(練習型)」、「宿題(宿題型)」に加えて「字形推測(予習型)」、「送り仮名シート(練習型)」を新しくおこなった。

2学期はⅣグループの学習者が最も多く、非漢字圏の学習者がやはり全体の75%をしめていたつので、人数の多いⅣグループの学習者に焦点を当て、ゆつくりとした指導を実施した。1学期の反省を生かし、「予習シート(予習型)」、「まとめシート(練習型)」、「ディクテーション(復習型)」を新たにおこなつた。学習者の傾向としては各グループで1学期と同様の傾向がみられた。媒介語についても1学期と同様に学習者の様子を見ながら3回目までは主に英語による指示、4回から徐々に日本語の使用率を増やす方法をとつた。しかし漢字導入に限つては単語レベルでは英語を混用し最後まで使用した。

3学期は学期を通してもっとも漢字圏の学習者が多かつた。1学期は全体の15%、2学期は25%そして3学期は46%と、割合で見ても他の2つの学期とは異なつている。3学期においては漢字圏、非漢字圏の割合がほぼ半々であつた。わけても漢字圏の学習者は主にJ200レベルのⅠグループであり、非漢字圏の学習者は主にJ100レベルのⅣグループであつたため、クラスの運営としては漢字学習においてより多くの困難を感じると思われろⅣグループに焦点をあて、2学期と同様に媒介語として英語を使用し、導入も丁寧に行う方法をとつた。また漢字圏学習者が多い中、Ⅳグループの学習者が圧倒され、学習放棄することのないように、「復習シート(宿題型)」、「書道(楽しみ型)」を新たに導入するなど、タスクを工夫し興味と動機につながるように心がけた。

3.2 出欠推移と最終成績

ここでは、学期ごとの授業放棄者と最終成績について報告する。表2は、1学期から3学期までの初級漢字クラスの出席の変移である。「欠席」は通常の欠席で、「放棄」はその欠席から休みが続き、60%以上の出席を満たさなかつたり、期末テストを受なかつたりするケースとした。表2を見ると、1学期は2課分の漢字を導入している週と、2課分の導入した漢字のクイズを実施する週、つまり2課分の漢字を導入した週と次の週に欠席や遅刻が多いのが分かる。授業放棄する学習者があられるのも第3週以降であることから2課分の漢字導入が学習者にとって負担になつている様子が伺える。特に非漢字圏のⅡグループ、Ⅳグループの学習者が授業放棄する場合が多い。図1は学期ごとの授業放棄者の人数

である。授業放棄した学習者の割合は1学期25%、2学期21%、3学期21%と学期を通しておおよそ約20%の割合であるが、グループ別に見た場合、IVグループの学習者の授業放棄が最も多い。これについても2課分の導入による学習への負担が関与しているものと思われる。IVグループの学習者に対して何らかの対応を考えなければならないことがこの表からも伺える。

表2 2011年度K200クラスにおける出欠推移²⁾

	導入課	L1	L2	L3.4	L5	L6	L7.8	L9	L10	L11	テスト
	週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週
1学期	出席	14	18	14	12	13	9	11	11	9	10
	遅刻	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0
	欠席	0	0	3	3	3	6	4	4	6	5
	放棄	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0
2学期	出席	18	20	23	19	19	18	19	17	17	/
	遅刻	0	0	0	3	0	3	0	0	0	
	欠席	0	1	0	3	2	1	0	2	2	
	放棄	0	0	0	2	1	2	0	0	0	
3学期	出席	18	20	23	19	19	18	19	17	17	17
	遅刻	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0
	欠席	0	1	0	3	2	1	0	2	2	2
	放棄	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0

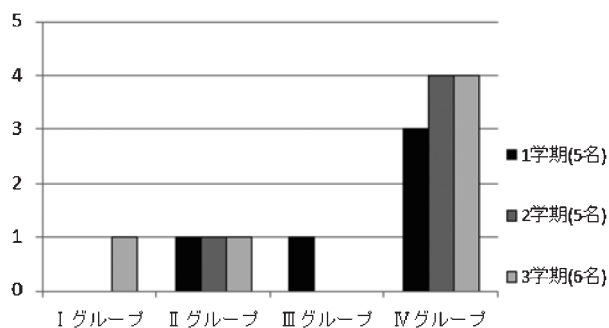


図1 学期別の授業放棄者数およびその内訳

以下の図2は、2011年度の学期別の最終成績である。筑波大学留学生センターの成績は、Aは評定80以上、Bは70以上、Cは60以上、そして59以下をDとしており、加えて出席が60%に満たない場合も成績はDとしている。授業取消しはXで表す。なお本稿では、D

とXは同等にあつかう。

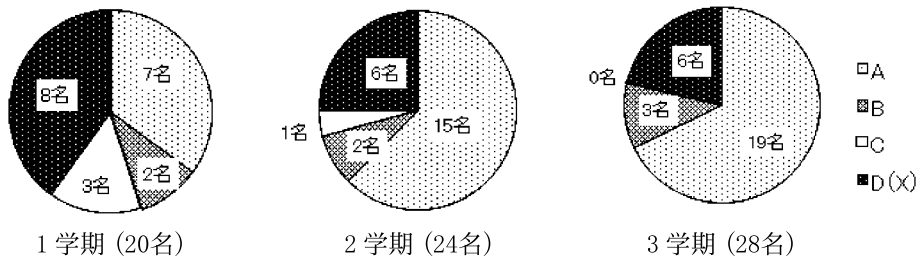


図2 2011年度の各学期における最終成績

図2に表したように、最終成績がD(X)となった学習者は、1学期で8名、2学期で6名、3学期で6名である。授業放棄者を除いても1学期で3名、2学期で1名最終成績がDの学習者がいる。彼らは期末テストの週に欠席しテストを実施しなかったため、合格レベルに満たずDになった者である。追試も受けに来なかったため欠席の理由も不明である。学期を通してみた場合、1学期では合格レベルである成績Cまでの学習者が全体の60%であったが2学期では75%、3学期では78%と漢字入門クラスの合格レベルを満たしている学習者が増えている。学習者自身のモチベーションや能力も関わるゆえ一概には言えないが、クラス運営の方法やタスク活動の効果が徐々に現れてきたように思われる。

下の図3は、最終成績がD(X)であった学習者のグループ別の人数である。やはりIVグループの学習者が最も多いことが分かる。漢字圏であるIグループやIIIグループの学習者にD判定の学習者が少ないように見えるが、それはもともと登録した学習者が少ないためである。

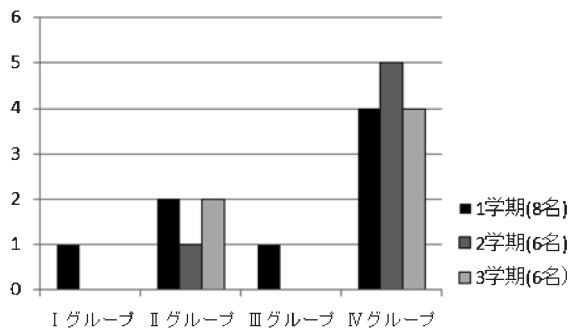


図3 各学期における成績D(X)の学習者数

4. タスクと学習者の様子

1コマの授業は大きく、クイズ・新出漢字の導入・タスクという3つの要素で構成されている。クイズは前回の復習を兼ねて遅刻も防ぐため、毎回の授業の初めに実施される。新出漢字の導入はカイザー（2004）と加納（2004）に倣って字形のみならず、音読みと訓読みの区別にも注意を払いながら、字形・訓読み・音読みの順でおこなわれる。タスクは大分して「予習型、練習型、宿題型、復習型、楽しみ型」³という5つの種類があり、以下のような流れでおこなわれた。ここでは、タスクの詳細と学習者の様子について報告する。

＜授業（75分）の流れ＞

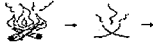
クイズ（5分）→宿題型タスクの確認（5分）→復習型タスク（5分～10分）→予習型タスク（5分）→新出漢字の導入（25分～30分）→練習型タスク（15分～20分）→宿題型タスクの配布 →楽しみ型タスク（時間に余裕があった場合）

4.1 予習型タスク

4.1.1 字形推測と意味推測

「字形推測」は1学期から、象形文字をあつかう課（L1、L2、L6、L7）において実施されたタスクである。教師から字形覚えのヒントが与えられる前に学習者が自らみつける練習をさせることを目的とする。例えば、L2をあつかう週に、漢字の中には絵から作られたものが数多くあるという情報を与えた後、【資料1】のようなシートを配布し、学習者に本人なら絵からどのような形の漢字を作るかを想像して書いてもらう。その後、新出漢字の字形を昔から長年にわたって修正し定着された形として紹介し、学習者の想像したものと比較させる。非漢字圏の学習者が過半を占めるクラスでは、ペアで話し合ったり、クラスの前で発表したりすることもできる。なお、これと似たタスクとして、会意文字をあつかう課（L5）において、意味推測のタスクもおこなった。

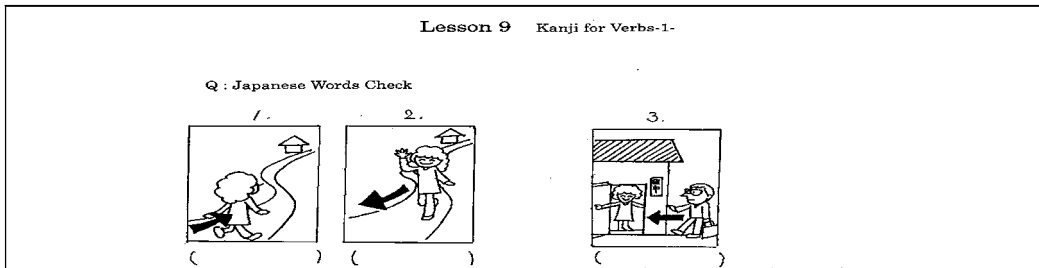
【資料1】 字形推測と意味推測の一例

Lesson 2 Kanji made from Picture-2-		
Q: Imagine and draw the form of the each kanji from each picture		
Word	Picture	Kanji
1. fire		

4. 1. 2 語彙チェック

J100レベルの学習者がK200を受講する際の問題点の一つは、クラスで取り上げられる語彙のほとんどが未知語であることである。例えば、「よむ」と「のむ」という語彙が既知であるJ200レベルの学習者はクラスで「読む」と「飲む」という字形と送り仮名に集中できるのに対し、J100レベルの学習者はまず「よむ」と「のむ」の区別でつまづくことが多い。そこで、J100レベルの学習者が半数を占めた1学期の経験をいかし、2学期からは、J100レベルの学習者に次回の新出漢字の基本語彙にあらかじめ触れさせることを目的とし、絵を見てそれに相当する日本語の単語を平仮名で書いてくるような予習型タスクを取り入れた。まだ日本語の学習経験の少ないJ100レベルの学習者は学期初めには何を予習すべきかが分からず、復習のみに力を入れることが多かったが、このタスクによって徐々に予習の方法が定着していく様子が見られた。事前に基本語彙に目を通してだけでも心理的かつ認知的負担が軽減するようであり、膨大な学習量に圧倒された表情を見せるJ100レベルの学習者は段々と減ってきた。このようなタスクは主に2課分の導入の週(L3とL4、L6とL7)と、形容詞や動詞、時を表す漢字をあつかう週(L8、L9、L10)で実施された。

【資料2】語彙チェックの一例



4. 2 練習型タスク

4. 2. 1 ペア読み

「ペア読み」は、筆者らがK200を担当する以前から筑波大学留学生センターでおこなわれていた活動である。1枚の紙に新出漢字の音読みと訓読みで作成された短文が並んでいる。表と裏に同じ文が書いてあるが、表には偶数番号のみに、裏には奇数番号のみに振り仮名がある。ペアは表か裏を決め、1文ずつ、振り仮名のない文を読んでいき、読み方が分からない時にはペアの相手に教えてもらう。このタスクを筆者ら担当のクラスでも1学期からほぼ毎週おこなったが、J100レベルの学習者からは文の構造や意味が理解できず、つまづいている様子が多く観察された。そのため、ペアで交互に読むことをやめ、一人で静かに確認しようとする様子やJ200レベルの学習者がJ100レベルの学習者に文の構造と意

4.2.4 まとめシート

「PPT読み」の前に一人で新出漢字の読みを確認する段階を置いたほうが「PPT読み」の効果も向上できるという1学期の反省を踏まえ、2学期から取り入れられた⁵。【資料4】のようなシートを配り、教師が新出漢字を導入する際に各漢字を最低1回ずつ書いてみるようにした。新出漢字の導入が終わると、約5分間を与え、そのタスク・シートを用いた自習時間を与えた。自習内容は、各漢字の音読みと訓読みを書き入れ、その読み方で読まれる語彙をテキストから調べることであった。漢字圏の学習者にはすべての読み方について、非漢字圏の学習者には一番基本になる音読みと訓読みのみについて調べさせた。その間、教師はクラスを回り、学習者の書いた字形が誤っていないかをチェックした。特に、非漢字圏の学習者には字形を一度間違っていると後で何度修正されてもなかなか直らないという場合もあるので、できるだけ細かくチェックした。漢字圏の学習者に対しては母語の字形と混同したり、母国の漢字で適当に書いたりした場合に指摘した。

【資料4】 まとめシートの一例

Summary Sheet (まとめシート)											
1.		1 st Kun-Reading			1 st On-Reading			Other Reading			
		words			words			words			

4.3 宿題型タスク

4.3.1 宿題

BKBでは各課に新出漢字を紹介した後、「よみれんしゅう」と「かきれんしゅう」というセクションを通し、新出漢字の語彙を練習させるが、K200クラスでは従来、授業時間を主に新出漢字の導入にあて、「よみれんしゅう」と「かきれんしゅう」は宿題としている。該当部分はコピーして毎週配るため、テキストを提出する必要はない。2010年度からは「Sentence Writing」という短文作成のセクションを加えた⁶ことが従来とは異なる点である。

4.3.2 復習シート

K200クラスでは従来から、漢字学習を語彙学習として捉え、文の中で読んだり書いたりする活動をできるだけ多くおこなってきたが、2011年度の1・2学期のクラスを観察した

結果、J100レベルの学習者は文中の漢字を読んだり書いたりする活動ではペアやグループ・ワークに参加せず一人で静かに確かめようとする様子が見られた。また、中には新出漢字の基本語彙とチャレンジ語彙の区別がつかず、すべてを覚えようとする場合もあった。そこで、3学期から【資料5】のような宿題型タスクを試みた⁷。「ペア読み」に似た形式で、当日までの新出漢字を累積し、その基本語彙のみで作られた短文が書いてある。表と裏とともに同じ文だが、「読めますか」の表には漢字のみで、「書けますか」の裏には仮名のみで書かれている。まず表の漢字語彙に振り仮名を振り、次に裏の既習語彙を漢字に書きなおすという活動である。毎週、新しいシートが配られるが、一目でそれまでのポイントが復習できるという利点がある。

【資料5】 復習シートの一例

K200 復習 (L1~L10)	K200 復習 (L1~L10)
<p>★ 読めますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一万円の半分は五千元です。五百円ではありません。 2. 富士(ふじ)山は高いです。筑波(つくば)山は低いです。 3. 山と川の間には畑がたくさんあります。 4. 一時間、森の中で休みます。 5. この林には花が多いです。石は少ないです。 	<p>★ 書けますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>いちまんえん</u>の<u>はんぶん</u>は<u>ごせんえん</u>です。<u>ごひゃくえん</u>ではありません。 2. <u>富士(ふじ)さん</u>は<u>たかい</u>です。<u>筑波(つくば)さん</u>は<u>ひくい</u>です。 3. <u>やまとかわ</u>の<u>あいだ</u>には<u>はたけ</u>がたくさんあります。 4. <u>いちじかん</u>、<u>もりのなか</u>で<u>やすみます</u>。 5. この<u>はやし</u>には<u>はな</u>が<u>おおい</u>です。<u>いし</u>は<u>すくない</u>です。

4.4 復習型タスク

4.4.1 ディクテーション

毎週クイズの終了後、教師が前回習った語彙や短文を5問ずつ読み上げ、学習者はそれを聞き取り、各自のノートに漢字と仮名に分けて書きとめる活動である。聞いた語彙や短文のどこが漢字表記なのかが判断できるようになることを目指す。「読み方と書き方をクラスでもっと練習したい」という1学期の学習者のニーズを受け、2学期から取り入れられた。ディクテーションは読み練習と書き練習を融合した活動として漢字圏にも非漢字圏にも有効であると期待できる。ホワイトボードに答えを書かせることでFeedbackをおこなったが、IVグループの中では自分のノートに書きとめるまでは楽しんでいても、Feedbackになるとボランティアとして手をあげることがほとんどなかった。

4.5 楽しみ型タスク

4.5.1 書道

3学期から取り入れられたタスクである。学期を通して1～2回程度おこなわれたが、時間的に余裕のある週におこなわれたため、クラスによって実施された時期は異なる。日本の書道について簡単に紹介した後、予め用意した筆ペンと漢字練習帳のコピーを配り、ホワイトボードの見本を見ながら、漢字練習帳の一マスの中に漢字をきれいに書くようにした。最終回に実施したクラスでは、L11で学習した「7つの部首パターン」から1字ずつを見本として、次のレベルであるK300での学習につなげた。限られた紙面に収まるように漢字をきれいに書くことが非漢字圏の学習者にとっては非常に楽しい経験であったようで、自分の書いた字をクラスメイトと見せあったり携帯電話のカメラで撮ったりしながら楽しんでいる様子が見られた。

5. アンケート調査

ここでは、2011年度の3学期におこなわれた「授業終了時のアンケート」⁸の結果に基づき、学習者は各タスクをどう評価しているのかについて報告する。

5.1 漢字学習の困難点とK200クラスについて

「漢字学習の最大の困難点は何ですか」という問いに「字形、送り仮名、音読み、訓読み、その他」から1つだけを選ばせた結果、漢字圏であるIグループ、IIIグループの学習者は、日本語のレベルを問わず「訓読み」を最も多く選んだ半面、非漢字圏の学習者は、IIグループからは「字形」が最も多く選ばれたが、IVグループからは「字形」と「音読み」や「訓読み」に選択が分かれた。よって、非漢字圏の中でもJ100レベルの学習者は、漢字学習において困難を感じる要素が多いことが確認された。なお、送り仮名を選んだ非漢字圏の学習者はいなかった。

表3 漢字学習の最大の困難点

漢字学習の困難点	字形	送仮名	音読み	訓読み	その他
Iグループ (6名)	0	2 (33%)	1 (17%)	3 (50%)	0
IIグループ (3名)	3 (100%)	0	0	0	0
IIIグループ (2名)	0	0	0	2 (100%)	0
IVグループ (3名)	1 (33%)	0	1 (33%)	1 (33%)	0
クラス全体 (14名)	4 (29%)	2 (14%)	2 (14%)	6 (43%)	0

「このクラスに満足していますか」という問いに対しては、「5. とても満足している」から「1. 全然満足していない」までの中で評価してもらった結果、クラス全体の平均は4.86にのぼり、最後まで受講した学習者は総じてクラスに非常に満足している様子が見られた。特に、ⅢグループとⅣグループの満足度が非常に高く、J100レベルの学習者は苦労した分、乗り越えた時の満足感がより高いことが示された。

表4 K200クラスへの満足度

クラスの満足度	← 満足している		満足していない →			平均
	5	4	3	2	1	
I グループ (6名)	5	1	0	0	0	4.83
Ⅱグループ (3名)	2	1	0	0	0	4.67
Ⅲグループ (2名)	2	0	0	0	0	5.00
Ⅳグループ (3名)	3	0	0	0	0	5.00
クラス全体 (14名)	12	2	0	0	0	4.86

自由記述欄においては、非漢字圏からは字形の説明に言及しているコメントが多く、それが記憶の助けにもなっている様子が見られた。漢字圏からは、「読み方のルールをもっと教えてほしい (著者訳)」や「中国語と日本語との漢字音の違いについての情報がほしい (著者訳)」などといったコメントが多く、読み方に関する情報をより多く求めていた。

5.2 各タスクについて

5.2.1 予習型タスクについて

予習型タスクについては、「字形推測」の平均が4.50で、「語彙チェック」の平均が4.57であり、総じて満足したと評価されたが、詳しくみると、タスクによって、また、学習者のグループによって意見が分かれる。「字形推測」に関しては非漢字圏の学習者の満足度が高い。それに対して、「語彙チェック」に関してはJ100レベルの学習者の満足度が非常に高い。よって、同じく非漢字圏の学習者の多いクラスでも学習者の日本語レベルに応じて、予習型タスクの運営を変える必要があると思われる。

表5 予習型タスクについての評価

① 字形推測	←役に立った 役に立たなかった→					平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ (6名)	2	3	1	0	0	4.16
IIグループ (3名)	2	1	0	0	0	4.67
IIIグループ (2名)	1	1	0	0	0	4.50
IVグループ (3名)	3	0	0	0	0	5.00
クラス全体 (14名)	8	5	1	0	0	4.50
② 語彙チェック	←役に立った 役に立たなかった→					平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ (6名)	2	4	0	0	0	4.34
IIグループ (3名)	1	2	0	0	0	4.34
IIIグループ (2名)	2	0	0	0	0	5.00
IVグループ (3名)	3	0	0	0	0	5.00
クラス全体 (14名)	8	6	0	0	0	4.57

5.2.2 練習型タスクについて

練習型タスクについては、タスクの種類によって評価が分かれた。「ペア読み」の平均は4.07で、「PPT読み」の平均は3.93であり、ペアやクラス・ワークに関しては総じて比較的低い評価であった。中でも、「PPT読み」についてはJ100レベルの学習者の評価が特に低かった。反面「まとめシート」は平均が4.71、「送り仮名シート」は平均が4.64であり、個人作業に関しては総じて好評であった。中でも、「まとめシート」については非漢字圏の学習者の評価がとくに高かった。よって、当日の練習としてはクラス全体において、ペアやクラス・ワークより、個人作業の方が好まれており、中でも、非漢字圏のJ100レベルの学習者であるIVグループにその傾向があるのではないかと考えられる。

当日の練習として、ペアやクラス・ワークより、個人作業の方が好まれる様子は、自由記述欄でも観察された。

ペアやクラス・ワークについては、「(ペア読みで) 相手が文の意味ばかり聞いてきて、私は練習できなかった(著者訳)」というようなコメントや「まだ単語を覚えていないから(PPTで見ても) 読めません(著者訳)」というようなコメントが多かった。これらは教師がクラス内で観察した様子と一脈相通ずる。そこで、「ペア読み」はペア同士の文法能力に差がある場合には練習にならないため、J100レベルの学習者同士やJ200レベルの学習者同士というように、ペアの日本語レベルをできるだけ合わせる必要があると分かった。また、「PPT読み」は当日提示すると、認知的負担の高い場合、つまり2課導入の週や未知語の多いJ100レベルの学習者に対しては良い練習にならないため、短文レベルの提示を次

表6 練習型タスクについての評価

① ペア読み	←役に立った		役に立たなかった→			平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ(6名)	1	4	1	0	0	4.00
IIグループ(3名)	1	2	0	0	0	4.33
IIIグループ(2名)	0	2	0	0	0	4.00
IVグループ(3名)	1	1	1	0	0	4.00
クラス全体(14名)	3	9	2	0	0	4.07
② PPT読み	←役に立った		役に立たなかった→			平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ(6名)	2	3	1	0	0	4.17
IIグループ(3名)	0	3	0	0	0	4.00
IIIグループ(2名)	0	1	1	0	0	3.50
IVグループ(3名)	0	1	2	0	0	3.34
クラス全体(14名)	2	9	3	0	0	3.93
③ まとめシート	←役に立った		役に立たなかった→			平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ(6名)	3	3	0	0	0	4.50
IIグループ(3名)	3	0	0	0	0	5.00
IIIグループ(2名)	1	1	0	0	0	4.50
IVグループ(3名)	3	0	0	0	0	5.00
クラス全体(14名)	10	4	0	0	0	4.71
④ 送り仮名シート	←役に立った		役に立たなかった→			平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ(6名)	4	2	0	0	0	4.67
IIグループ(3名)	2	1	0	0	0	4.67
IIIグループ(2名)	1	1	0	0	0	4.50
IVグループ(3名)	2	1	0	0	0	4.67
クラス全体(14名)	9	5	0	0	0	4.64

回の復習とするなどと、状況に合わせてやり方を工夫していく必要があることが確かめられた。

一方、個人作業については、「先生が説明していると、私も書いてみたいから、書いてよかった(筆者訳)」、「復習の時にも役立った(筆者訳)」、「先生がすぐ(字形を)確認してくれるから安心できた(筆者訳)」、「読み方が自分ですぐまとめられて記憶に残った(筆者訳)」という「まとめシート」への好評が漢字圏と非漢字圏を問わず見られた。グループによって漢字学習の困難点が異なり、クラスで求める練習も違うため、自分の弱点を補

う自習時間が新出漢字の導入後にすぐ与えられたのが良かったようである。ただ、「まとめシート」による自習時間は5分以内という短い時間にとどめ、直後に「PPT読み」による確認があることを事前に伝え、適度な緊張感を保たせるようにするのが運営の注意点としてあげられるであろう。筆者らが有効なタスクとして期待している「送り仮名シート」に関しては特にコメントはなかった。これは漢字学習の経験の少ない学習者は漢字学習の際、字形や読み方に学習の注意が向かいやすく、送り仮名に対する認知がまだ低いとも考えられる。

5.2.3 宿題型タスクについて

宿題型タスクについては、「宿題」の平均が4.85で、「復習シート」の平均が4.93であり、総じて非常に満足度が高かった。「宿題」と「復習シート」の両方が漢字圏か非漢字圏、J100レベルかJ200レベルかを問わずすべてのグループに好評であった。「宿題」は当該課の新出漢字の語彙を網羅して読み練習と書き練習ができるという利点があり、「復習シート」は当該課までのポイントが累積され、毎週繰り返して復習できるという利点があり、漢字学習を続ける助けとなったと思われる。

表7 宿題型タスクについての評価

① 宿題	←役に立った		役に立たなかった→			平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ (6名)	5	1	0	0	0	4.84
IIグループ (3名)	2	1	0	0	0	4.67
IIIグループ (2名)	2	0	0	0	0	5.00
IVグループ (3名)	3	0	0	0	0	5.00
クラス全体 (14名)	12	2	0	0	0	4.85
③ 復習シート	←役に立った		役に立たなかった→			平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ (6名)	5	1	0	0	0	4.84
IIグループ (3名)	3	0	0	0	0	5.00
IIIグループ (2名)	2	0	0	0	0	5.00
IVグループ (3名)	3	0	0	0	0	5.00
クラス全体 (14名)	13	1	0	0	0	4.93

5.2.4 復習型タスクについて

復習型タスクとしては「ディクテーション」しかおこなわれなかった。平均が4.00で総じて満足しているようだが、筆者らの期待には至らない評価であった。IとIIグループの

満足度は比較的に高いが、ⅢとⅣグループの満足度が低い点からみると、ホワイトボードでの答え合わせがJ100レベルの学習者には負担となったことも考えられる。また、1回5問ずつだけであったため、復習できる内容が少ないと感じたことも考えられる。現行のやり方では、J100レベルの学習者の多いクラスでは良い練習にならない恐れもある。復習できる内容を増やしたり、Feedbackの仕方を変えたりして、ディクテーションの満足度が上がるように工夫する必要がある。また、復習型タスクのバリエーションを増やし、学習者の構成やニーズに合わせた運営ができるように備えるべきであろう。

表8 復習型タスクについての評価

ディクテーション	←役に立った 役に立たなかった→					平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ (6名)	1	5	0	0	0	4.17
IIグループ (3名)	1	2	0	0	0	4.34
IIIグループ (2名)	0	1	1	0	0	3.50
IVグループ (3名)	0	2	1	0	0	3.67
クラス全体 (14名)	2	10	2	0	0	4.00

5.2.5 楽しみ型タスクについて

楽しみ型タスクとしては「書道」しか実施されなかったが、平均は3.86にしか至らなかった。わけても、非漢字圏の評価は比較的に高かったが、漢字圏の評価は低かった。「漢字学習に役に立ったか」という設問であったため、このような結果となったと思われる。実際には漢字圏も非漢字圏も楽しんでいたので、学期の半ばの集中力の切れてくる時点や、期末試験の日に実施できれば、よい動機づけになると期待される。自由記述欄には漢字圏の学習者から、「(学期をとおして) 1回でいい (筆者訳)」というコメントもみられた。

表9 楽しみ型タスクについての評価

書道	←役に立った 役に立たなかった→					平均
	5	4	3	2	1	
Iグループ (6名)	0	2	4	0	0	3.34
IIグループ (3名)	1	2	0	0	0	4.34
IIIグループ (2名)	0	1	1	0	0	3.50
IVグループ (3名)	2	1	0	0	0	4.67
クラス全体 (14名)	3	6	5	0	0	3.86

6. 今後に向けて

さまざまなタスクを試みた結果、1学期から3学期にむかって途中放棄も少し改善され、成績も多少向上された印象が見受けられるが、2課分のクイズの日の遅刻はまだ依然として残っている。よって、今後はタスク以外の改善策も求められる。例えば、1回に2課分の漢字を導入する方法ではなく、2回にわたって3課分の漢字を導入するなどといった、1.5課分導入という方法も考えられるだろう。

なお、学習者のグループによって漢字学習の困難点が異なり、求めるクラス活動も違うためタスクに対しての意見は分かれることもあった。ところが、読み・書きのタスクを授業内にもっと取り入れた方がいいという意見は学習者のグループを問わず、多くのコメントに見られた。例えば、漢字圏であるⅠ・Ⅲグループは読みに困難を感じ、読み方の説明や読み練習を多く求めている。反面、非漢字圏であるⅡ・Ⅳグループは字形の説明や書き練習と個人作業に満足度が高い様子が見られた。しかし同じ非漢字圏の学習者であっても、日本語のレベルがJ100レベルかJ200レベルかによって、タスクへの評価も分かれる場合もあった。また、J100レベルの学習者とJ200レベルの学習者が混在するクラスにおいては、「ペア読み」や「PPT読み」などといった従来からの良い活動が有効に活用されない様子も見られた。そこで、Ⅳグループの学習者が圧倒されずに最後まで学習を続けられるようにサポートしながらも、クラスの構成やニーズに応じたタスクの選択とやり方への工夫が今後の課題としてあげられる。

以上、残された課題はその対策案が検討され、2012年度のクラス⁹にて試みられている。追ってその報告をおこないたい。

注

1. 筑波大学留学生センター日本語補講では、初級日本語をJ100からJ400までの4つのレベルに分けている。J100は日本語初習者レベル、J200は日本語初級の前期レベル、J300は日本語初級の中期レベル、J400は日本語初期の後期レベルである。
2. 2011年度2学期は震災の影響によって9週となり、8週目にL10とL11の2課分を導入し、9週目に期末テストを実施した。
3. 本稿でいう「練習型タスク」とは、当日の学習項目をあつかうタスクをさし、「復習型タスク」とは、前回の学習項目をあつかうタスクをさす。
4. 2010年度の柳田担当のクラスで試みられたものを、2011年度のK200チームが引き継いだ。
5. 2011年度の2学期と3学期に鄭担当のクラスで試みられた。
6. 2010年度の柳田担当のクラスで試みられたものを、2011年度のK200チームが引き継いだ。

7. 2011年度の3学期に鄭担当のクラスで試みられた。このタスクを試みたクラスでは、途中放棄者が出ず最終成績も全員がB以上であった。
8. 2011年度の3学期に鄭担当のクラスでおこなわれたアンケートに基づく。アンケートは受講者全員(14名)から回収された。
9. 2012年度には、鄭は時間割表上の都合でK200チームから外れたが、柳田は引き継いでいる。

参考文献

- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子(2010)『Basic Kanji Book, Vol.1 (第4版)』
凡人社
- カイザー シュテファン(2004)「漢字 1」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』
第19号: 97-98
- 加納千恵子(2004)「漢字 2」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第19号: 103-
108

【資料6】 授業開始時のアンケート調査

K200 Basic Kanji Class

In order to improve the academic environment and teaching effectiveness of Basic Kanji Class, please answer the following questions. Student Status

1. Kanji Back ground
(1) Kanji Background student (2) Non-Kanji Background student
2. Japanese Level
(1) J100 (2) J200 (3) J300 (4) J400

How was the class?

3. I was satisfied with the class.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
4. The orientation at the first class was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
5. Explanation of Kanji's form was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
6. Explanation of Kanji's reading was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
7. Explanation of writing system (Kanji-Kana, Okurikana...etc.) was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree

How were tasks?

8. The task of pair reading was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
9. The task of power point reading was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
10. The task of writing (Dictation) was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
11. The preview sheet (Japanese word check) was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
12. The review sheet (よめますか・かけますか) was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
13. The guessing sheet (Kanji made from picture) was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
14. The Summary sheet was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
15. The Okurikana sheet was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
16. The homework was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree
17. The experience of calligraphy was helpful for me to learn kanji.
(1) Strongly Agree (2) Agree (3) so-so (4) Disagree (5) Strongly Disagree

Any comment?

18. Any comment about explanation, task, activity in the class.
(Japanese, English or Chinese will be welcomed)
19. Any comment about the class.
(Japanese, English or Chinese will be welcomed)

What was the most difficult thing for learning kanji?

20. Check it, and write the reason please.
 Writing (Kanji's form)
 Writing (Okurigana おくりがな)
 Reading (On-reading; Chinese-originated reading)
 Reading (Kun-reading; Japanese-originated reading)
 Others

Thank you very much for your time and consideration.